

(別添様式1) ※A3判(1枚)に収める。「わがまちの道徳教育推進プラン」の内容と事業実施計画書及び報告書との整合性に留意して記載すること。

わがまちの道徳教育推進プラン		所管する小学校名	三原村立三原小学校	校数	1校	計	2校
三原村教育委員会		所管する中学校名	三原村立三原中学校	校数	1校		
道徳教育推進方針		学校・家庭・地域が一体となった道徳教育の推進 ～ 夢や目標をもち、地域をよりよくしようとする三原っ子の育成～					
年度当初の拠点地域の状況		到達目標		中間検証(下半期に向けての改善事項)		到達目標達成状況	
<p>今年度当初に、地域の児童生徒の道徳性の実態を把握するために行った道徳意識調査の結果から、10項目中6項目は、肯定的回答が90%以上であった。しかし、③「家の人と道徳の話をしたり、『家庭で取り組む高知の道徳』を読んだりしている」の項目が59.5%と低い割合となった。</p> <p>また、④「自分には、よいところがあると思う」の項目が88.3%、⑨「地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがある」の項目が同じく88.3%、⑩「小:高知県がすきだ。中:社会人になっても、自分たちの地域や高知県のためになる仕事をしたいと思う。」の項目が82.9%という結果であった。</p>		<p><b>道徳意識調査の肯定的回答の割合の向上</b></p> <p>③「家の人と道徳の話をしたり、『家庭で取り組む高知の道徳』を読んだりしている」3ポイント以上向上</p> <p>④「自分には、よいところがあると思う」3ポイント以上向上</p> <p>⑩「小:高知県がすきだ。中:社会人になっても、自分たちの地域や高知県のためになる仕事をしたいと思う。」3ポイント以上向上</p>		<p>1. 到達目標の3項目について</p> <p>③52.9% 結果分析: -6.6ポイント</p> <p>夏季及び冬季休業中の宿題として、小・中学校ともに『家庭で取り組む高知の道徳』を使用する。また、授業の中でも可能な限り活用し、児童生徒自らが実感できるよう、小・中学校で情報交換を行いながら実施する。</p> <p>④「自分には、よいところがあると思う」3ポイント以上向上→91.8%</p> <p>結果分析: +3.5ポイント 小中学校ともに、児童生徒のよさに着目し、認め合う活動やその掲示を常時行っている。これらの活動が結果に反映されたものと考えられるので、下半期も継続して実施する。</p> <p>⑩「小:高知県がすきだ。中:社会人になっても、自分たちの地域や高知県のためになる仕事をしたいと思う。」3ポイント以上向上→96.7%</p> <p>結果分析: +13.8ポイント 今年度から県の指定を受け、生活・総合的な学習の時間の充実に向けた取組を強化している。そのため、児童生徒が三原村をはじめ高知県全体に目を向け学習する中で、住んでいる地域への愛着を感じられるようになってきたことが結果に反映されたものと考えられる。下半期も、生活・総合的な学習の時間との関連を図りながら継続して実施する。</p> <p>2. チェックシートを活用した授業を小・中学校とも実施できている。その結果分析から、下半期は「学習構成」「発問」「話し合い」の3項目について重点的に取り組み、さらなる授業力の向上を目指す。</p> <p>3. 推進協議会を3回実施し、取組の共通認識を図り今後に向けての課題を確認することができた。下半期も中間検証の結果を基に実践・検証を行っていく。</p>		<p>1. 到達目標の3項目について</p> <p>③「家の人と道徳の話をしたり、『家庭で取り組む高知の道徳』を読んだりしている」82.4%(年度当初との差+29.5P)</p> <p>小中学校で取り組む時期を揃えたことや学級・個人懇談及びPTA講演会時、保護者に冊子を紹介し活用を促すことで、家庭と一体となった取組を推進できた。来年度も、授業での積極的な活用や保護者への啓発を行っていく。また、小・中学校ともに『家庭で取り組む高知の道徳』を長期休業中の課題として取り組む。</p> <p>④「自分には、よいところがあると思う」88.8%(年度当初との差+0.5P)</p> <p>教員による児童生徒への肯定的評価を意識的に取り組んできた。また、児童生徒間で認め合う活動を推進してきた。さらに、それらの掲示(可視化)を年間を通して行った成果と考える。</p> <p>⑩「小:高知県がすきだ。中:社会人になっても、自分たちの地域や高知県のためになる仕事をしたいと思う。」87.9%(年度当初との差+5.0P)</p> <p>生活・総合的な学習の時間についての取組が進み、児童生徒が三原村や高知県全体について理解を深めることができた。小中学校では、各校での自作教材を使用し、その資料に登場(実在)する方をゲストティーチャーとして招き、授業の終末にお話を伺う機会を設けている。これらの取組が数値に反映されたものとする。来年度も、他教科(特に生活・総合的な学習の時間)との関連を図る。</p> <p>※④と⑩は、中間検証時との比較において数値低下が見られるため、来年度も取組の継続が必要であると考える。</p>	
到達目標達成のための取組		指標達成状況の分析					
取組項目	取組の評価指標	5月～8月	中間評価	9月～2月(中間検証を踏まえての追記・変更可)	達成状況	年度末評価	
道徳教育の主体的な推進体制の整備	◆小・中学校において、道徳教育推進のための校内体制ができている。	①道徳教育推進協議会(2回) ・小中の道徳教育推進教師を中心とした推進体制の確認 ・児童生徒意識調査結果の協議・取組策の検討 ②県教育委員会・西部教育事務所指導主事を招聘した研修の実施(6～8月) ③先進校視察報告による効果的な取組の共有(8月)	A	①道徳教育推進協議会(3回) ・意識調査の検証を踏まえた取組改善策に基づく実践の報告・検証 ②大学教授や県教育委員会・西部教育事務所指導主事を招聘した研修の実施(9月・2月) ③保小中合同研修会にて全職員で成果と課題の共有を図る。(2月)	・小中学校において、道徳教育推進のための校内体制が確立できた。また、推進協議会を合計4回実施し、取組の共通認識を図った。 ・教員や児童生徒へのアンケートを定期的に行い、その結果を基に課題・改善策を打ち出して実践することができた。	A	
道徳科の趣旨を踏まえた指導方法及び評価の在り方に関する道徳の授業実践の研究	◆道徳授業力チェックシート【教師用】【児童生徒用】におけるポイントを年度当初より向上させる。(小・中共通して、学習構成・発問・話し合いについての項目を特に意識して取り組む。)	①各学年において、道徳の趣旨を踏まえた道徳授業の実施 ・道徳教育の授業参観とチェックシートへの記入(年度当初) ②道徳教育推進協議会において道徳授業力チェックシートの結果の協議・小中の授業改善策の検討(7月)	B	①各学年において、道徳の趣旨を踏まえた道徳授業の実施 ・道徳教育の授業参観とチェックシートへの記入(年度末) ②道徳教育推進協議会において道徳授業力チェックシートの検証を踏まえた授業改善に基づく実践報告・検証(2月) ③年度に向けて、本年度の評価に係る取り組みの報告と検証(2月)	・講師招聘により道徳授業のあり方やその評価について研修を深めることができた。 ・道徳授業力チェックシートにおける結果は、全10項目のうち、8項目で年度当初より向上が見られた。しかし、重点項目の「発問:安心して意見が言い合える学級の雰囲気があった」に関しては、児童生徒による結果が-0.1Pであった。また、「児童生徒理解:考えが深まるように、先生から問い返しなどがあった」に関して、児童への調査結果が-0.1Pであった。来年度の課題として、取組を検討していく。	B	
小小連携・小中連携による小・中学校の道徳教育の充実	◆公開授業研究に参加し、取組の共通理解を図る。 ◆重点項目を決めて道徳意識調査等のアンケートのポイントを年度当初より向上させる。	①道徳教育推進協議会における小中の道徳の全体計画の確認 ②児童会・生徒会を中心としたあいさつ運動の推進(通年) ③道徳意識調査を行う。(年度当初・中間)	B	①小中連携における1回以上の授業研究の実施(9月・2月) ・小中学校道徳教育の授業参観と研究協議 ②道徳教育推進協議会における取組の成果報告、改善策検討 ③児童会・生徒会を中心としたあいさつ運動の推進(通年) ④道徳意識調査を行う。(年度末)	・年度当初、肯定的回答が88.3%であった⑨「地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがある」の項目は、年度末には91.0%(+2.7P)であった。 ・「将来の夢や目標をもっている」の項目は、年度末には82.1%(-3.3P)となった。総合的な学習の時間に様々な人々と出会い、その生き方に触れたり、キャリア教育の中で、児童生徒が「自分」について見つめる時間を充実させるなどして、今後さらに他教科との関連を図っていく必要がある。	B	
学校・家庭・地域の連携を図ったまちぐるみでの道徳教育の推進	◆地域の方に、小中学校の道徳授業への参観を呼びかける。 ◆「高知の道徳」を活用した懇談会を、各校で学期に2回以上実施する。	①道徳参観日(6月) ・学校及び学級通信等での参加の呼びかけ及び道徳に係る情報の紹介 ・「高知の道徳」を踏まえた学級懇談等の実施 ②家庭・地域との連携の方策の具体策の協議 ・「高知の道徳」の計画的な活用 ・夏季休業中、学校が指定した「高知の道徳」のページ(特に家庭で話題にしてほしい内容)を宿題とする。	B	①「高知の道徳」を踏まえた学級懇談等の実施 ・学校及び学級通信等での道徳に係る情報の紹介 ・冬季休業中、学校が指定した「高知の道徳」のページ(特に家庭で話題にしてほしい内容)を宿題とする。 ②今後の家庭・地域との連携の方策を協議(2月) ・学校、家庭、地域の次年度に向けた連携内容の検討	・「高知の道徳」活用について、年度当初、小中学校の道徳教育推進教師が月ごとの重点取組項目について協議した。また、「高知の道徳」から抜粋したページを拡大印刷し、道徳推進教師より全校児童生徒に向けて講話後、校内への掲示を行う取組を毎月行った。 ・来年度も、三原村の道徳教育について、学校・家庭・地域が共通理解できるよう、通信等での参観の呼びかけや村広報の活用により発信していく。	A	

※評価 A(十分できた) B(おおむねできた) C(あまりできていない) D(全くできていない)